

舗装小補修工 作業手順

	内 容	留 意 事 項	危険性・有害性の洗い出し	重篤度	可能性の 度合	リスク評 価	優先度	リスク低減措置			
準備工	<ul style="list-style-type: none"> 作業打ち合わせ(KY活動) 作業内容、人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 《規制完了》 <ul style="list-style-type: none"> 規制完了を待機中の作業車両に連絡すると共に、規制進入位置も伝える。 《作業車両配置》 作業車両の入れ替え又、作業に支障とならない場所に車両を配置する。 《作業準備》 <ul style="list-style-type: none"> 必要な工具、機械、資材を人力又はクレーンを使用し、荷台から降ろす。 <ul style="list-style-type: none"> 埋設物の確認(トランク・路温計等) 	<ul style="list-style-type: none"> 安全品質作業指示書による 指示書の内容確認 マニフェストの準備 日常点検の実施/SDSの確認 <ul style="list-style-type: none"> 入り口は線形の良い場所に設置し、必ず誘導員を配置する。 <ul style="list-style-type: none"> 作業現場と防護車の離隔を20m程度とる。 <ul style="list-style-type: none"> クレーン使用時はアウトリガーを確実に張り出し使用する。 <ul style="list-style-type: none"> 事前に図面にて確認後、現場にて再度確認を行う。(埋設標等) 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車が現場に突っ込み挟まれけがをする。 クレーン事故により怪我をする。 <ul style="list-style-type: none"> 埋設物を切断する 								
カッター工	<ul style="list-style-type: none"> 《補修ラインのすみだし》 施工箇所をマーキングし、カッター工の準備を行う。 舗装カッターで、ラインにそって規定の深さまで舗装を切断する。 	<ul style="list-style-type: none"> センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 「はみ出し作業あり」の看板設置 カッター使用後は、水抜きを行い、歯止めをかう。 カッターの深さを決定する際、橋梁上は舗装厚の薄い所が有り、床版を傷つけない様深さを決定する。 ブレード付近には、手、足を近づけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車両と接触し作業員がケガをする。 カッターが動き出し、通行車両と接触する。 ブレードにてケガをする。 	3	3	6	Ⅲ				
				4	1	5	Ⅲ				
				4	1	5	Ⅲ				
				4	2	6	Ⅲ				
飛散防止ネット設置	<ul style="list-style-type: none"> トラック(クレーン車)から飛散ネットをおろす。 カッター終了後、3～4人でネットを組立て、設置する。 ウェイトは、鑄鉄製枕型分銅20kgを計4個使用し、通行車線反対側の底部に緊結する。 組立て完了後ハツリ箇所を取り込む位置までせり出し設置する。 (ガードレール等が無い区間については、工事用車両やそれに変わる堅固な物に取り付ける。)	<ul style="list-style-type: none"> その際、荷台からネット、作業員等転倒転落しない様注意する。 クレーンを使用して荷下ろしする際は吊り荷の下に入らず、介錯ロープにて支持する。 介錯ロープは2m以上の長尺物に対しては両端2箇所を設置する。 組立ては、通行車両から離れた箇所にて行う。 ウェイト、養生ロープで設置、固定されるまで2人以上でネットが倒れないように押さえておく。 ガードレール等強固な物がある場合は、ウェイトの代替えとし、養生ロープによりほどけない様に結びつける。 ロープはネット上部に、2点引き 	<ul style="list-style-type: none"> ネットが転倒、滑動し、通行車両と接触する 設置中、一般車両が突っ込み接触する <ul style="list-style-type: none"> 吊り荷の下敷きになる。 	4	2	6	Ⅲ				
				4	2	6	Ⅲ				
				5	2	7	Ⅳ				
				5	2	7	Ⅳ				
はつり工	<ul style="list-style-type: none"> 飛散防止ネットを設置した後、カッターライン内の舗装をブレード、ピック等を使用して、はつり取る。 コンプレッサーを使用し清掃する。 深さ検測を行う。 廃材はトラックに積み込み、所定の処分場に運搬し、処理を依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に合った保護具を使用する。 マニフェストの提出 	<ul style="list-style-type: none"> ハツリ片が飛び通行車両にキズをつける As.Co片が目に入りケガをする。 	4	3	7	Ⅳ				
				4	2	6	Ⅲ				
作業中のネット移動	<ul style="list-style-type: none"> ネットの移動は設置撤去に準ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単独作業はしない。 									
飛散防止ネット撤去	<ul style="list-style-type: none"> 飛散防止ネット撤去の際は、通行車両に影響の無い箇所までネットを2～4人で作業帯に引き込み、上段から順に解体する。 	<ul style="list-style-type: none"> 飛散防止ネット撤去の際は、作業員全員で同時に作業を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 解体時、車両の風等に巻き込まれ接触する。 	5	2	7	Ⅳ				
乳剤塗布	<ul style="list-style-type: none"> はつり面には乳剤散布機を使用し、均一に乳剤塗布を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車への飛散防止を確実にを行う。 保護具の着用。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車に飛散する 乳剤が目に入りケガをする。 	4	1	5	Ⅲ				
舗 設 工	<ul style="list-style-type: none"> トラックにて運んで来たアスファルト合材を、人力にて舗設箇所に卸し、レーキ等を使用し均一に敷き均す。 7.5cm以上の厚みは、2回打ちとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 《合材温度の確認》 工場出荷時の温度から-20℃以上の物は、使用しない。 トラックの誘導時は、わかりやすい合図を送る。 <ul style="list-style-type: none"> 骨材の飛散と火傷には十分注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ダンプトラックがバックする際人を轢く。 アスファルト合材が体に接触しやけどを負う。 	3	2	5	Ⅲ				
				1	3	4	Ⅱ				
転 圧	<ul style="list-style-type: none"> プレートコンパクター、振動ローラーを使用し十分締め固める。 2回打ちの場合は、一回ごと転圧を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 ローラーに挟まれないように周囲の安全確認を行う。 機械使用後は、水抜きを行い歯止めをかう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車両と接触し作業員がケガをする。 ローラーがバックする時、挟まれる。 	3	3	6	Ⅲ				
				2	3	5	Ⅲ				
養 生	<ul style="list-style-type: none"> 転圧終了後、舗装温度が下がるまで、養生を行う。 この時間内に、出来型検測を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 舗装の規制開放温度は、40℃以下 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車が突っ込んで来てケガをする。 	5	2	7	Ⅳ				
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。 終礼の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 はつりかす、合材かすが無い様に、綺麗に清掃する。 									

注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 作業に合った保護具の使用を行う。 有資格者による、機械作業を行う。 センターライン付近の作業は、十分注意を行う。 一般車への飛散防止は確実にを行う。 振動ローラーの取り扱いには、特に注意する。 廃材処理にはマニフェストを必ず使用する。 研り作業中は、結束ロープ及びウェイトを取り外さない事を原則とする。 規制内での作業開始前「避難場所を定めて、避難訓練を実施する」 ローラー・カッターへの給水は車輻へ積載前に行い、帰所後水タンクのための給水とする。 現場内では一般通行車線と反対側で給水すること。
------	---